

# 小さなきのこのこが この山を重力かす。

三重県に、きのこ菌床を  
生産している森林組合がある。

「伐採されたまま荒廃している山が増えています」  
と語るのは、松阪飯南森林組合の  
田口陽一さん。地域の林業は針葉樹中心だが、  
高齢化や木材価格の低迷で、  
山林の維持管理が難しくなっている。

「一方、菌床の需要が高まり、原料である広葉樹の  
原木不足で生産が追いつかない状況です」  
これからは広葉樹の循環する山づくりが必要だ――。

こうして、未植栽地を活用した広葉樹の造林と、  
きのこ菌床の生産能力向上を目指すプロジェクトが始まった。

きのこ、森、動物、人。ぜんぶつながっている。

原木用の広葉樹は、約15年と短周期で伐採でき  
再造林のコストも低く、森林保全につながる。

木の実は動物の食料となり、獣害の軽減も期待される。  
種子の採取や育苗作業は、  
シルバー人材や障がい者の新しい雇用の場を生む。

このプロジェクトの全ては、輪のようにつながっているのだ。  
「菌床生産の設備も強化していきます」  
きのこの町として雇用が進み、山全体が

元気になれば」と意気込む田口さん。  
森ではキツキツの木を叩く音が、軽やかに響いていた。

農林水産業みらい基金は、助成金を通じて、松阪飯南森林組合の  
広葉樹の造林・きのこ菌床生産事業の発展をサポートしています。

